

2026年3月10日  
 積水ハウス株式会社  
 大栄環境株式会社  
 AGC 株式会社

## 国内初 積水ハウス、大栄環境、AGC、 住宅改修における窓ガラスの資源循環の実証実験を開始

積水ハウス株式会社（社長：仲井 嘉浩、以下「積水ハウス」）、大栄環境株式会社（社長：金子 文雄、以下「大栄環境」）、AGC 株式会社（社長：平井 良典、以下「AGC」）の3社は、住宅<sup>\*1</sup>の改修工事に伴い発生する廃サッシから窓ガラスを回収し、元の窓ガラスと同等品質の窓ガラスへ再生する水平リサイクルの実証実験を2026年3月より関西圏で開始します。ハウスメーカー・リサイクラー・ガラスメーカーが連携して窓ガラスを水平リサイクルする循環型モデルは国内初です。

### 【廃窓ガラス処理の現状と課題】

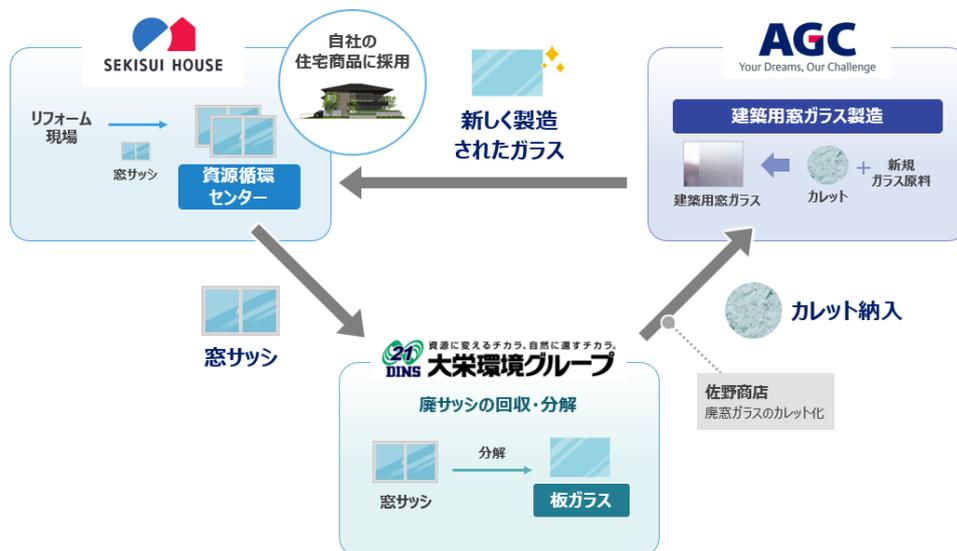
国内では、建築物の解体・改修に伴い発生する廃窓ガラスは年間約50万トン以上といわれ、現在はその多くが埋め立てや、元の製品よりも低品質なカスケードリサイクルまたは別用途での再生に留まっています。

### 【実証実験の概要と期待できる効果】

本実証実験では、製品をつくる企業（動脈）と、使用後の製品を回収・再資源化する企業（静脈）が連携し、窓ガラスを循環利用する仕組みの構築を目指します。これにより、資源循環の高度化を図るとともに、産業廃棄物の削減や、新規採掘される窓ガラス原料の使用量の節減にも寄与します。また、再生カレットは新たに採取された原料と比べて低温で溶解できるため、製造工程における温室効果ガスの排出削減にも貢献します。

### 【各社の役割】

回収した廃サッシを大栄環境が分解し、ガラスリサイクル専門業者が窓ガラスを高純度なカレット（ガラス端材）へ加工。AGC はそのカレットを原料の一部として用い、新材と同等の品質を満たす建築用窓ガラスとして再製品化します。製造した窓ガラスを積水ハウスの住宅商品に採用することで、同社が掲げる「循環する家（House to House）」の資源循環モデルを具体化。住宅のライフサイクル全体で環境負荷を低減する道筋を示し、産業廃棄物の削減とガラス原料の使用量節減を両立、資源循環の高度化を目指します。



住宅改修における窓ガラスの水平リサイクル事業スキーム図

## ■ 各社の役割と貢献

積水ハウス	住宅の改修工事にともない発生する廃サッシを回収・集積し、水平リサイクルへ寄与 自社製品にも使用
大栄環境	廃サッシの解体・分別を実施し、安定品質とトレーサビリティを確保するプロセスを構築
AGC	廃サッシ由来のカレットを一部原料として窓ガラスを製造し、リサイクルしやすいサーモクライン <sup>®</sup> などのガラス商品として積水ハウスの住宅商品へ納入

本実証における動静脈連携を通じて、今後より多くの排出事業者との連携にも適用できる実効性のある事業とすることを目指します。

積水ハウスが推進する「[循環する家 \(House to House\) 」プロジェクト](#)とは、あらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、付加価値の最大化を目指す社会経済システム「サーキュラーエコノミー」への移行における当社の取り組みで、家がまた次の家の資源として循環することの実現を目指すものです。住宅の全ての部材を見直し、リサイクル部材<sup>\*2</sup>だけで構成された家づくりと、その持続可能な資源利用を目指して、「つくり方から、つくりなおそう。」をスローガンに掲げ、活動しています。

大栄環境の中期経営計画 [D-Plan 2028](#) では、資源循環システムの高度化を成長施策と位置づけ、動脈市場向けに再資源化品の供給量拡大を目指しています。本実証を通じて、従来埋め立てなどに回っていた廃窓ガラスを水平リサイクルする動静脈連携スキームを構築しサーキュラーエコノミー社会の実現を目指します。

AGCグループの中期経営計画 [AGC plus-2026](#) では、当グループが提供する3つの社会的価値を示しています。このうち「Blue planet」では、資源の有効利用を重要機会ととらえ、ガラスの水平リサイクル拡大を通じて持続可能な地球環境の実現に貢献します。

### 〈注釈〉

<sup>\*1</sup> 賃貸住宅を含む2階建までの低層住宅が対象です

<sup>\*2</sup> 主要な構成材料にリサイクル原材料を含む部材（リユース、リニューアブル等を含む）。リサイクルの方法はクローズドループリサイクル、水平リサイクルに限定しない